

8 大学連携事業 FD・SD セミナー@佐賀大学 参加報告 (2016.2.20)

小林雄志 (熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻 特任助教)

2016年2月20日(土)に佐賀大学教養教育2号館211教室において、8大学連携事業FD・SDセミナーが開催された。

14時より佐賀大学全学教育機構 教授の穂屋下茂氏による講演「歯車設計・製作からeラーニングデザイン・マネジメントへの展開」が行われた。本公演は穂屋下氏の定年退任講演も兼ねているとのことで、前半では穂屋下氏の専門である歯車設計の研究・教育についてこれまでの実践内容に関する説明があった。後半は佐賀大学においてネット授業(eラーニング)が開始された経緯についての説明があり、開始当時の経費の獲得についての苦労や、オープンキャンパスでのミニ講義の収録からネット授業のコンテンツの試作を行ったこと等、eラーニング創成期の興味深い話を聞くことが出来た。

講演の後に宮崎耕治 佐賀大学長の挨拶が行われ、同じ日に地方創生に関する別会議にも出席してそちらでも挨拶を行ったことや、そちらの会議でも文科省の担当官が出席して講演を行っていることなどが述べられ、地方大学においてこうした動きが活性化している様子の一端が伺えた。

その後、基調講演「ネットワーク型FD・SDに期待するもの」が文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学改革推進室の河本達毅氏によって行われた。最初に大学を取り巻く状況に関する解説があり、諸外国において高等教育機関の学生が約10年間で倍増していることや、近年発展している国々はその発展の基盤として高等教育を重視していることなどが述べられた。こうした状況を踏まえ、日本としてもグローバル化が進む中で高等教育機関の機能分化やガバナンスの改革が求められており、これらを進める上でのFD・SDの課題として、中教審が指摘しているFDの課題が紹介された。特に、FDに関する専門家の不足やFD担当者のネットワークが発展途上といったことが問題となっており、ネットワーク型のFD・SDを推進して個々の大学の教育基盤を強化できる知見を共有するとともに各大学の特性・自主性を活かすための手法を共有・相互研鑽することでより高いレベルでの大学間競争を促すことが期待されていることが述べられた。本プロジェクトにおいては他大学への展開(横展開)を視野に入れていることから、こうした大学間での連携の動きを逐次把握しつつ、開発中の教育パッケージをどのように広めていくかの戦略を検討していくことが必要であると感じられた。